

I 調査問題の概要

○新しい「思考し、表現する力」を高める 実践モデルプログラムを
活用しよう

(1) 調査問題作成の枠組み

○問題形式について

- ・ 選択式、短答式、記述式の3種類。
- ・ 記述式の問題では、複数の考え方、答え方があるものなどについて出題。

○領域等と評価の観点について

- ・ 学習指導要領に示されている3領域1事項に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題。
- ・ 「話すこと・聞くこと」の領域については、児童が実際に話したり聞いたりするような調査を行うことが難しいため、場面設定・状況設定などを工夫して、話す・聞く活動にできるだけ近付けた形で出題。
- ・ 過年度の調査の結果に見られる課題等も踏まえながら、小学校第5学年までの内容で出題。

(2) 調査問題の概要

①設問の分類と区分

分 類	区 分	対象問題数(問)
学習指導要領の領域等	A 話すこと・聞くこと	3
	B 書くこと	3
	C 読むこと	3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2
	話す・聞く能力	3
	書く能力	3
	読む能力	3
	言語についての知識・理解・技能	6
問題形式	選択式	11
	短答式	2
	記述式	2

②各設問の問題の概要と過去の課題等との関連

問題番号	問題の概要	領域等	過年度 関連問題
1	一 インスタント食品のよさについての取材の進め方の説明として適切なものを選択する	話す・聞くこと 5・6年 ア	
	二 インスタント食品のよさについての取材における、メモの取り方の説明として適切なものを選択する	話す・聞くこと 3・4年 ア	
	三 インスタント食品のよさについての【発表の様子】の□に、取材を通して分かったことを取り上げて書く	話す・聞くこと 5・6年 エ	○
2	一 プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の最初の□の内容を、どのように工夫して書いているのか、適切なものを選択する	書くこと 5・6年 イ	○
	二 プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の□に、【本の一部】からプラスチックがずっと残ってしまう理由を書く	書くこと 5・6年 ウ	○
	三 プラスチックの3R週間を提案する【下書き②】の「プラスチックの3R週間 チャレンジ表」をどのような目的で書いているのか、適切なものを選択する	書くこと 5・6年 エ	○
	四 (1) ア プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の中の――部アを、漢字を使って書き直す(ひじょうにおどろきました)	伝国 5・6年 (1) ウ(ア)	

	四 (2) イ	プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の中の――部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものと適切なものを選択する(考えをあらため)	伝国 5・6年 (1) イ (ウ)	
	四 (2) ウ	プラスチックの3R週間を提案する【下書き②】の中の――部ウを、送り仮名に気を付けて書き直したものと適切なものを選択する(たしかめましょう)	伝国 5・6年 (1) イ (ウ)	
	五	プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の△の文を、……部と――部とのつながりに気を付けて書き直す	伝国 3・4年 (1) イ (キ)	○
3	一	「金色の足あと」を読み、【ふせん①】の□に入る内容として適切なものを選択する	読むこと 3・4年 ウ	○
	二 (1)	「金色の足あと」の――部イの文で、……部「長い」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	伝国 3・4年 (1) イ (キ)	
	二 (2)	「金色の足あと」の――部ウの文で、……部「しきりに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	伝国 3・4年 (1) イ (キ)	
	三	「金色の足あと」を読み、木村さんが、【ふせん③】で正太郎が感動したと考えている内容として適切なものを選択する	読むこと 5・6年 エ	○
	四	木村さんが、「金色の足あと」の――部オを――部ア、エと関係付けて読み、【ふせん④】のように書いた理由の説明として適切なものを選択する	読むこと 5・6年 エ	○

(3) 調査問題の活用にあたって

A 話すこと・聞くこと

◎目的や意図に応じて取材の仕方を工夫し、自分の考えをまとめる

取材をする際には、目的を明確にした上で収集した知識や情報を関係付けながら進めていくことが大切である。取材後、どのように活用して発信するのかという方法や内容を具体的に想定した上で、取材の仕方を考えることも大切である。また、メモやノートの内容を比較、対照したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かすようにすることが大切である。

B 書くこと

◎目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して提案する文章を書く

構成を考える際、それぞれの段落にどのような内容を書くのか、どのように配置すると効果的に伝わるのかを考えることが大切である。読み手の知識や経験などを具体的に想定し、それに応じて書き出しの内容を考えるなど、提案する文章では、読み手に提案を受け入れてもらえるように構成を考えて書くことが最も重要である。提案理由が明確であること、提案を行動に移した時の利点などを明示することが大切である。

C 読むこと

◎叙述を基に登場人物の相互関係や心情などを捉え、自分の考えをまとめる

物語などを読む際は、時間や場所、問題状況などの設定、情景や場面の様子の変化、登場人物、登場人物の性格や行動、会話及び心情の変化、事件の展開と解決などの基本的な構成要素を、叙述を基に理解した上で、想像を豊かにしながら読むことが大切である。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、暗示的に表現されている場合もあるため、文章の表現の仕方に注意しながら読むことが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◎主語と述語、修飾と被修飾の関係に注意して文を正しく書く

書いた文章を推敲する学習を繰り返し、書き直したものが読みやすくなり、相手に伝わったということを見ることが実感できるようにすることが大切である。文を書くに当たって、主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」・「どのように」・「なぜ」など、文の構成について理解することができるような工夫をすることも大切である。

(1) 調査問題作成の枠組み

○問題形式について

- ・ 選択式、短答式、記述式の3種類。

○記述内容に関わる問題の出題について

(a)「事実」を記述する問題（対応設問：2(2)）

数量や図形、数量関係を考察して見出した事実を、確認したり説明したりすることが大切である。

「事実」を記述する問題では、計算の性質、図形の性質や定義、数量の関係の記述を求めること、表やグラフなどから見出すことができる傾向や特徴の記述を求めることが考えられる。また、「事実」を記述する際には、説明する対象を明らかにして記述することを求めることが考えられる。

(b)「方法」を記述する問題（対応設問：1(5)、3(4)）

問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明することが大切である。

「方法」を記述する問題では、問題を解決するための自分の考え方や解決方法の記述を求めること、他者の考え方や解決方法を解釈して、その記述を求めることが考えられる。また、ある場面の解決方法を基に別の場面の解決方法を考え、その記述を求めることが考えられる。

(c)「理由」を記述する問題（対応設問：4(2)）

論理的に考えを進めてそれを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすることが大切である。

「理由」を記述する問題では、ある事柄が成り立つことの理由や判断の理由の記述を求めることが考えられる。また、「理由」を記述する際には、「AだからBとなる」のように、Aという理由及びBという結論を明確にして記述することを求めることが考えられる。さらに、理由として取り上げるべき事柄が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述することを求めることが考えられる。

(2) 調査問題の概要

①設問の分類と区分

分 類	区 分	対象問題数 (問)
学習指導要領の領域	A 数と計算	8
	B 量と測定	3
	C 図形	3
	D 数量関係	5
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0
	数学的な考え方	7
	数量や図形についての技能	3
	数量や図形についての知識・理解	6
問題形式	選択式	4
	短答式	8
	記述式	4

②各設問の問題の概要と過去の課題等との関連

問題番号	問題の概要	領域	過年度 関連問題
1	(1) 150cmの1.3倍に当たる長さを求める式と答えを書く	A	○
	(2) 10000mは何kmであるのかを書く	B	
	(3) 72000m ² は何の72000個分であるのかを選ぶ	B	○
	(4) 縦80m、横50mの長方形の面積を求める式を書く	B	○
	(5) 縦80m、横50mの長方形を縦に何個、横に何個並べると、縦240m、横300mの長方形になるのかについて、求め方と答えを書く	A	○
2	(1) 三角柱の底面に貼る紙の枚数と、側面に貼る紙の枚数を書く	C	
	(2) 示された四角柱について、かけ算の式がどのようなことを表しているのかを書く	ACD	○
	(3) 円柱の側面に貼る長方形の紙の横の長さを示す適切な点を選ぶ	C	○
	(4) エナメル線のおよその長さを求めるために、調べる必要のある数量を選ぶ	AD	○
3	(1) $1/3 + 2/5$ を計算する	A	○
	(2) $1/4L$ の図を直すわけとしてまとめた文章に入る数を書く	A	○
	(3) $1/2 + 1/4$ の計算の仕方を表している図について、一つ分の大きさが何Lであるのかを書く	A	
	(4) $0.75 + 0.9$ について、ある数のいくつ分かを考え、整数のたし算に表して説明するときの求め方を書く	A	○
4	(1) 50個の図に対して、40個を表している図を選び、40個は50個の何%であるのかを書く	D	○
	(2) ヘチマのくきの長さを表している棒グラフを基に、のびたくきの長さを表している棒グラフを選び、選んだわけを書く	D	○
	(3) 教室の気温を表している折れ線グラフから読み取ることができる事柄を選ぶ	D	○

(3) 調査問題の活用にあたって

A 数と計算

◎計算の仕方を解釈・検討する

児童が友達と考えを比べて自分の考えを修正することで、学び合ったり、学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感したりすることが大切である。

◎ある数のいくつ分かを考えて、統合的に考察する

分数の加法や小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、整数の加法に帰着できるという共通点を見出し、統合的に考察しようとするのが大切である。

B 量と測定

◎量の大きさを実感をもって捉える

身近な量に置き換えたり、適切な単位を用いたりする等、1mや1m²といった量の大きさについての感覚を豊かにして、量の大きさを実感をもって捉えることが大切である。

C 図形

◎図形の構成要素や性質を基に考察する

図形の構成要素である辺の数、辺の長さなどを基にして、考察することが大切である。算数の学習では、具体的な操作を通して、図形の構成要素や性質を基に考察したり、問題の解決のために必要な数量を見出したりすることが重要である。

D 数量関係

◎目的に応じて、様々な観点で考察する

ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見出し、それらの数量との間にある関係を把握して、問題解決に利用することができるようにすることが大切である。必要感をもった上で、目的を明確にし、目的に応じて、資料を収集したり、グラフに表したり、様々な観点で考察したりすることが大切である。

(1) 調査問題作成の枠組み

○問題形式について

- ・ 選択式、短答式、記述式の3種類。
- ・ 記述式の問題では、複数の考え方、答え方があるものなどについて出題。

○領域等と評価の観点について

- ・ 学習指導要領に示されている3領域1事項に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題。
- ・ 「話すこと・聞くこと」の領域については、生徒が実際に話したり聞いたりするような調査を行うことが難しいため、場面設定・状況設定などを工夫して、話す・聞く活動にできるだけ近付けた形で出題。
- ・ 過年度の調査の結果に見られる課題等も踏まえながら、中学校第2学年までの内容で出題。

(2) 調査問題の概要

①設問の分類と区分

分 類	区 分	対象問題数(問)
学習指導要領の領域等	A 話すこと・聞くこと	2
	B 書くこと	1
	C 読むこと	3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2
	話す・聞く能力	2
	書く能力	1
	読む能力	3
	言語についての知識・理解・技能	8
問題形式	選択式	7
	短答式	5
	記述式	2

②各設問の問題の概要と過去の課題等との関連

問題番号	問題の概要	領域等	過年度 関連問題
1	一 動画の活用の仕方について説明したものとして適切なものを選択する	話す・聞くこと 2年 ウ	○
	二 行書で書かれた「桜」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	伝国 1年(2) イ	○
	三 卒業生から学ぶ会の最後に述べるお礼の言葉を書く	話す・聞くこと 1年 イ	
2	一 「固定観念を異なる視点から見ること」について、本文中に示されている具体例として適切なものを選択する	読むこと 1年 イ	○
	二 本文中の「さえ」と同じ意味で用いられている用例と、その意味を選択する	伝国 2年(1) イ(エ)	
	三 「逆に」について、何と何が「逆」なのかを説明したものとして適切なものを選択する	読むこと 1年 イ	
	四 図に当てはまる言葉の組合せとして適切なものを選択する	読むこと 1年 イ	
3	創作している俳句に入れる言葉を選択し、その言葉を選んだ理由を書く	書くこと 2年 ウ	

4	一 ①	漢字を読む (震えて)	伝国 2年(1) ウ(ア)	
	一 ②	漢字を読む (支度)	伝国 2年(1) ウ(ア)	
	一 ③	漢字を読む (吹いて)	伝国 2年(1) ウ(ア)	
	二 ①	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (よささうな)	伝国 1年(1) ア(ア)	○
	二 ②	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (ある)	伝国 1年(1) ア(ア)	○
	三	動作をしている人 (もの) が異なるものを選択する	伝国 2年(1) イ(ウ)	

(3) 調査問題の活用にあたって

A 話すこと・聞くこと

◎自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す

何のために報告したり紹介したりするのかという目的や、相手はその話題についてどの点に関心があり、どのような情報をもっているか等の状況により、報告や紹介の仕方が変わることには留意する必要がある。話し手は、取材した材料や具体的な事実、自分の考えや意見などをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、文末表現等にも注意して事実と意見との関係を明らかにして話したりすることが大切である。聞き手の人数や立場、年齢構成、会場の広さ等を踏まえ、話し方を工夫することも大切である。

B 書くこと

◎自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書く

多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書く際、事柄に対する意見、記述する際の論の展開を考え、論点に対する自分の立場を決め、自分の考えの中心や主張を明確にして書くことが大切である。詩歌を作ったり、物語を書いたりする際には、既習事項を参考に言葉や表現を工夫して書くことが大切である。その際、抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句等について理解し、語感を磨き、語彙を豊かにするように指導することも有効である。

C 読むこと

◎文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える

文章と図表等との関連を考えながら、説明や記録の文章を読む際には、図表が文章の中心的な部分、または付加的な部分のどの部分と関連しているのかを確認する等して、書き手の伝えたい内容を的確に読み取ることが大切である。読む目的に応じて段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、更に大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えるようにすることも重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◎文脈に即して漢字を正しく読むこと

漢字の音訓を理解し、語句として話や文章中で文脈に即して意味や用法を理解しながら読めるようにする。読書等を通して漢字の読みの習熟と応用を図ることが大切である。

◎歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと

生徒の興味・関心を大切にして文語のきまりについて指導する。古典を取り上げる際、繰り返し音読し、古典特有のリズムに気付かせ、その特徴について理解を深める。

◎文の成分の照応について理解すること

文の中の文の成分の順序や照応、文の構成を考える際、語順や文の成分の照応による表現の変化を様々な文型について考えさせ、文の成分の順序や照応への関心を高める。

(1) 調査問題作成の枠組み

○問題形式について

- ・ 選択式、短答式、記述式の3種類。

○記述内容に関わる問題の出題について

(a) 見出した事柄や事実を説明する問題（対応設問：7(3)、9(2)）

数量や図形などの考察対象や問題場面について、成り立つと予想される事柄や事実を見出す問題を出題し、それを的確に捉え直し、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現する力をみている。

事柄を数学的に表現することは、のちの学習において逆の意味を吟味したり、解の吟味の必要性に気付いたりするなど、論理的に考えを進めながら新たな知識を習得できるようにする上で大切である。そこで、「○○ならば、◇◇になる」のような形で、「前提（○○）」と、それによって説明される「結論（◇◇）」の両方を記述することを解答として求めている。また、数量や図形などの考察対象について、成り立つことを数学的に表現し記述することを解答として求めている。

(b) 事柄を調べる方法や手順を説明する問題（対応設問：6(2)）

事象について、数学的に考察する場面でのアプローチの方法や手順を説明する問題を出題し、構想を立てたり、それを評価・改善したりする力をみている。

他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったりする上で、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりすることが大切である。その際、「用いるもの」（表、式、グラフ）を明確にした上で、その「用い方」（ x と y の関係式にある値を代入して求めるなど）の2つの事項について記述することが大切である。

(c) 事柄が成り立つ理由を説明する問題（対応設問：8(3)）

説明すべき事柄について、その根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明する問題を出題し、論理的な思考力や表現力をみている。

ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際には、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、その根拠を指摘することが大切である。そこで、「○○であるから、△△である。」のような形で、「根拠（○○）」と、「成り立つ事柄（△△）」の両方を記述することを解答として求めている。

(2) 調査問題の概要

①設問の分類と区分

分 類	区 分	対象問題数（問）
学習指導要領の領域	A 数と式	4
	B 図形	4
	C 関数	3
	D 資料の活用	4
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0
	数学的な見方や考え方	6
	数学的な技能	3
	数量や図形などについての知識・理解	6
問題形式	選択式	5
	短答式	6
	記述式	4

②各設問の問題の概要と過去の課題等との関連

問題番号	問題の概要	領域	過年度 関連問題
1	絶対値が3より大きい数を選ぶ	A	○
2	2けたの自然数を文字を用いた式で表す	A	○
3	垂線を作図する手順において、ふさわしい点を選ぶ	B	○
4	x の増加量と y の増加量から一次関数の変化の割合を求める	C	○
5	男子生徒35人がハンドボール投げを行い、記録の中央値が2.4mだったことについて、正しく記述しているものを選ぶ	D	○
6	(1) 4日間で集まった紙パックの枚数を求めるために、枚数を何に置き換えて考えているかを書く	C	○
	(2) 集まった紙パックの合計の重さを45000gとしたとき、紙パックの枚数の違いがおよそ何枚になるのかをグラフから求める方法を説明する	C	○
7	(1) $AF \parallel BE$ となることについて根拠となる2つの角を書く	B	○
	(2) 調べたことの①と④を基に、予想が成り立つことをいう際に、根拠として用いる平行四辺形になるための条件を選ぶ	B	
	(3) $\triangle ABC$ において、 $\angle B$ の大きさが 90° で、点Eが辺BCの midpoint ならば、四角形ABEFがどのような四角形になるのかを説明する	B	
8	(1) 待ち時間の範囲を求める	D	○
	(2) ヒストグラムから待ち時間が60分未満の来院者の人数を求める	D	
	(3) 「60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言いきれない」と主張することができる理由を相対度数を用いて説明する	D	
9	(1) 洋平さんの求め方の手順2に対応する計算を連立方程式を解く過程1から選ぶ	A	
	(2) 里奈さんの求め方の手順3において、わる数の3がどんな数であるかを説明する	A	

(3) 調査問題の活用にあたって

A 数と式

◎事象を数学的に考察する

数量の関係を捉えて方程式をつくり（事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する）、それを解いて得られた解や解いた過程を振り返り（解決の過程や結果を振り返り評価・改善する）、事象に即して解釈する（数学的に表現したことを事象に即して解釈する）ことが大切である。

B 図形

◎図形の性質を考察する

証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理することや新たに付加された条件の下で成り立つ事柄を考察することが大切である。手順どおりに操作し、実際の図を観察して成り立つと予想される事柄を見出すなど、授業に観察や操作、実験を取り入れたり、図形の特徴や性質を基に事柄が成り立つ理由を検討したりする場の設定が必要である。

C 関数

◎事象における数量の関係を見出し考察する

日常生活や社会の事象を考察する場面では、事象から必要な情報を選択したり、グラフを事象に即して捉えたりして（事象の特徴を的確に捉える）、数学的な結果（数学的に表現したこと）を事象に即して解釈することが求められる場合がある。問題解決の方法を考え、それを数学的に説明することが大切である。

D 資料の活用

◎データに基づいて不確定な事象を考察する

日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどを活用して数学的に処理し、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。判断の理由を数学的に説明することが大切である。

新しい

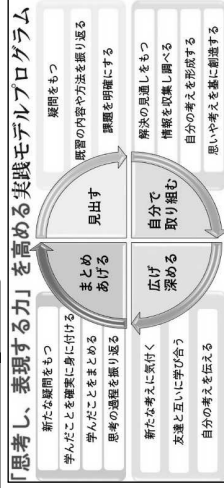
「思考し、表現する力」を高める 実践モデルプログラム

を活用しよう

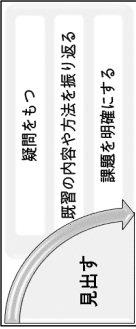
めざせ！
授業改善！

「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を基に、各学習過程の発問例の一部を作成しました。

新学習指導要領がめざす、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、校内研修の場で活用し、自校の実態にあった発問を考えてみましょう。



「見出す」…子供から引き出した疑問を、教師が整理し焦点化することで、課題が明確になります。



【こんな発問を考えてみましょう！】
○児童生徒の素直な疑問を引き出す。
○既習事項の共通点と相違点を明確にさせる。
○課題を明確にし、課題解決に向けた意欲をもたせる。など

「具体的な発問例」

学習していくことは何ですか。

どんな方法で考えましたか。

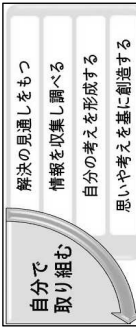
昨日はどんなことを発見しましたか。

○考えた発問を書いてみましょう



以前学習したことと、違いはどこですか。
不思議に思ったことや、
疑問に思ったことは何ですか。
みんなの疑問を整理しましょう。

「自分で取り組む」…「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組みことができるよう、課題解決の視点や方法を指導しましょう。



【こんな発問を考えてみましょう！】
○既習事項の何が使えるか、解決策を検討させる。
○わかることと、わからないことを明確にさせる。
○机間指導を通して、児童生徒の学習状況に基づいた支援を行う。など

「具体的な発問例」

何について考えたらよさそうですか。

図や表、絵などは使えそうですか。

集めた情報について順序付けや
仲間分けをしてみましょう。

○考えた発問を書いてみましょう



そのように考えた根拠は何ですか。
友達にもわかるように
自分の考えを書いてみましょう。
どこ（何）がわからないか、
できるところまで表してみましょう。

「広げ深める」…「伝える」ことだけに主眼を置くのではなく、「聞く」ことの指導も行い、形式的な学び合いから実質的な学び合いを目指しましょう。



【こんな発問を考えてみましょう！】
○教師が「学び合い」の進行役になり、児童生徒の考えを広げる。
○多様な考えを引き出し、友達の考えと自分の考えの違いに気付かせる。など

「具体的な発問例」

友達の考えを説明してみよう。

友達の考えを聞いて初めて
知ったことはありますか。

もしも○○だったらどうなるでしょうか。

○考えた発問を書いてみましょう



わからない友達にどんな
アドバイスができそうですか。
自分の考えと比べながら聞きましょう。
不思議に思ったことを
友達に聞いてみましょう。

「まとめあげる」…子供の言葉でまとめの言葉を予想して準備したり、子供が自分の思考を振り返り、学習したことを自覚できるようにさせたりしましょう。



【こんな発問を考えてみましょう！】
○個々の考えから学級全体の考えにしていける。
○学習したことを振り返り、自分の言葉でまとめさせる。
○次時の学習とのつながりを意識させる。など

「具体的な発問例」

難しかったことは何ですか。

前回の学習とどこが違いますか。

似たような問題にも使えますか。

○考えた発問を書いてみましょう



今日の学習を通じてどんなことが
わかりましたか。
今日の学習はどのように解決しましたか。
次の時間はどんな学習になりそうですか。

重要

「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。1単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。

大切なことは、単元計画や授業計画に意図的に「見出す」「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。